



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 8 月 2 7 日 (火)

発行 館長 加藤 智 一

川瀬巴水と満月

大正から昭和にかけて活躍した木版画家、川瀬巴水（明治 16 年～昭和 32 年）は、日本の原風景を求めて全国を旅し、四季折々の風景を表現しました。手掛けた木版画は、すべて巴水一人の手によるものではありません。版元の渡邊庄三郎はもちろんですが、彫師、摺師といった職人たちが、四者一体となって協業し、伝統技術を継承しながらもより高度な技術を求め、新時代の木版画「新版画」をけん引してきました。

今回、この川瀬巴水展が山形市の山形美術館で 7 月 1 1 日から 8 月 2 5 日まで開催されることとなり、先日私も、遅ればせながら行ってまいりました。前評判よろしく、平日にもかかわらず、大勢の方で賑わっておりました。山形の山寺や東京日本橋、芝増上寺、宮城の松島、岩手の平泉金色堂など馴染みの風景と、現代の風景とを頭の中で比較しながら鑑賞するのもなかなか乙なものです。鑑賞している人達の声がすれ違いざま聞き耳立てていると、富士山が良かった、雨の描写が素晴らしい、など様々でしたが、私の推しは夜の表現です。月明りに映し出された海や山、そして人々の暮らしが垣間見える建物から漏れ出る光など、深い紺色の世界に浮かび上がる満月の淡い光が何とも言えずすばらしかった。満月は時に白く、時に黄色味を帯び、時に橙色味を帯びて写し出されておりました。神秘的で、静かな佇まいは、他では見たことない圧巻でした。

と、感傷に浸りながら夜空を見上げた 8 月 2 0 日、なんと大きなスーパームーンが、それこそ橙色の光をまとってそこに在るではないか。川瀬巴水が表現した夜にも、必ず満月が登場しています（少なくとも今回山形に来たのは全部）。月と太陽の引力によって起こる海面の昇降現象が最大となり、海が満潮をむかえることで、地球上の多くの生き物にも影響を与えていると言われてはいますが、感傷的な気分になったのはそのせいかな？

8 月の満月は、スタージョンムーンと言うそうです。スタージョンつまりはチョウザメ。北アメリカ五大湖周辺では、今はどうか知らんけど、チョウザメ漁の最盛期なのとか。チョウザメと言えばキャビアでしょ。たくさん卵を付けることから繁栄と言う意味もあるのだとか。満月に特別な気持ちを抱いているのは、巴水だけではないのです。



ミュージアムショップで買ったブックカバー

水なす

昨日、大阪の親戚から、立派な箱に入った「水なす」と「水なす漬」が送られてまいりました。早速、生なすは南蛮漬けにして、糠漬は水で糠を洗い流してから食べやすい大きさに切って、食させていただきました。さすがわざわざ送ってただけあって、美味い!!一昨日食べた米沢のなすも美味かったけど、輪かけて美味かった。何でこんなに美味いのか、AIに聞いてみた。そしたら、『水なすは、その名の通り水分を多く含んだなすの品種。アクが強い普通のなすと違って、アクが少なく皮が薄い水なすは、生食にも適している。生で食べると、まるでフルーツのような瑞々しい食感がたまらない。また、素材のほのかな甘みも感じられる。水なすは、生食のほか浅漬けや塩もみして食べる方法も一般的だ。』と返してよこしました。なんと一般的な答え。しかし、皮が薄いか、アクが少ないとか、瑞々しいとか言うあたりはその通りなので納得。送ってくれた親戚によると、生ハムでも巻いても美味しいというので、今度やってみようと思う。

